

# ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

No.98

October 2018

応用地域学会ニュースレター

## CONTENTS

1. Review of Urban and Regional Development Studies (RURDS)について
2. 第32回応用地域学会研究発表大会（南山大学）のご案内
3. 第9回アジア地域科学セミナーのご案内
4. 「応用地域学研究」への投稿論文の募集
5. 事務局だより

## 1. Review of Urban and Regional Development Studies (RURDS) について

応用地域学会 会長 安藤 朝夫

RURDS は前身の「応用地域科学研究会」が 1987 年に発足した当初から、当時の坂下会長、目良副会長の  
下で発刊が検討され、1989 年の創刊以来、ARSC の定期刊行物として 30 巻が刊行されてきました。当初は  
昭和経済研究所（東京国際大学）及び科学研究費（定期刊行物出版補助）による支援が得られたため、学会経  
理上の負担も会費収入の半分程度に留まり、1995 年には和文を主体とする第二の刊行物として「応用地域  
学研究」が創刊されました。しかし科学研究費の申請区分廃止に続き、2013 年に昭和経済研究所からの支  
援（年 110 万円程度）が打ち切られるに及んで、学会経理上の重荷に転じました。

2016 年度決算では学会収入約 440 万円に対して、RURDS の版元である Wiley への支払いが約 340 万円と  
経費の 3/4 を占め、繰越金を約 130 万円取り崩す状態で、このまま続けると数年で財政破綻に至る状況で  
あることが明らかになりました。

このため昨年度の運営委員会で RURDS を廃刊する提案がなされましたが、総会では「RURDS の Wiley か  
らの撤退に向けて、執行部が Wiley との協議を開始すること」が承認されました（反対 2 名）。運営委員会

では、Wiley に対して撤退のための条件 (特に違約金の有無など) について情報提供を求めたところ、次のことが明らかになりました。

現在の Wiley との契約期間は 2022 年までであり、直ちに廃刊することは期間内での契約解消を意味しますが、それに伴う違約金は発生しない代わりに幾つかの条件が付されます。すなわち RURDS の名称及び著作権は Wiley の所有物となるため、今後 RURDS に関する一切の権利を主張できなくなる。また現契約期間終了まで、新雑誌の発刊が Wiley の事前承認なしには禁止されることです。

以上の条件をふまえ、運営委員会で議論を行った結果、以下のように取り扱うこととしました。

RURDS は会則の付則第 1 条で、「会則第 4 条に定める一般刊行物とは、ニュースレター、Review of Urban and Regional Development Studies および応用地域学研究を指す。海外会員については、『応用地域学研究』の購読は本人の希望によるものとする」と規定されているため、RURDS の廃刊には会則変更が必要になります。このため廃刊の有無に拘らず、2019 年までは RURDS の発行を継続しますが、費用節減のため 2019 年については E-journal のみとし、冊子体での配布は行わないことで、Wiley への支払いを約 280 万円に抑えることにしました。

会員各位におかれては、以上の状況を考慮の上、運営委員会案への賛否を表明して下さるようお願いいたします。この案件は学会の存立に関わる重要なものであると認識しているため、総会に欠席される場合は必ず委任状をご提出ください。また委任状には、この項目に限って単に議長一任ではなく、賛否について意見を表明して頂くためのチェック欄を設けています。本ニュースレター11 ページの様式に従って作成をお願いします。委任状を含め、過半数の同意が得られた場合、運営委員会案が承認されたものとしたします。

**(運営委員会案)**

RURDS を 2019 年(第 31 巻)を以て廃刊とし、既存の「応用地域学研究」(Journal of Applied Regional Science)のみを応用地域学会の学会誌とする。また廃刊に合わせて、必要な会則の変更を行う。

運営委員会案が否決された場合には、少なくとも現契約期間終了の 2022 年まで Wiley を通じて RURDS の刊行を続けることとなります。契約期間中の学会負担額を年 280 万円以下に抑えるよう努めますが、具体的な負担額については今後の Wiley との交渉に委ねられます。RURDS の所有権に関しては、契約終了時の Wiley との交渉に委ねられますが、RURDS の出版を (J-Stage へ移行する等) Wiley 以外で継続することが可能になります。

## 2. 第32回応用地域学会研究発表大会（南山大学）のご案内

大会実行委員長 奥田 隆明（南山大学）

2018年度ARSC研究発表会を、南山大学名古屋キャンパスにおいて、下記要項で開催いたします。多数のご参画をお待ちしております。最新情報については次の大会ホームページ をご覧ください。なお、大会ホームページはARSCホームページ（<http://www.arsc.org>）からもリンクしています。

大会ホームページ：<https://sites.google.com/site/nanzanarsc2018/>

(1) 期日 2018年12月1日(土), 2日(日)

※ 坂下賞受賞講演および総会は、1日の午後（16:40～18:20）に開催されます。

※ 懇親会は、1日の総会終了後（18:40～20:40）に開催されます。

### (2) 会場案内

南山大学名古屋キャンパス Q棟（〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18）



### (3) プログラム

プログラムは別紙の通りですが、直前の変更もありえますので、最新版については、大会ホームページをご覧ください。

プログラム: <https://sites.google.com/site/nanzanarsc2018/program>

### (4) 参加申込および支払い

大会ホームページから参加申込用紙をダウンロードして必要事項をご記入の上、下記の大会事務局（大会実行委員会）宛に、電子メールに添付して **11月9日（金）必着**でお送り下さい。すでにお申し込みいただいた方々、ご協力ありがとうございました。

<参加申込先（第32回研究発表大会実行委員会）>

■E-mail: [nanzanarsc2018@gmail.com](mailto:nanzanarsc2018@gmail.com)

<参加費等>

■学会参加費:       正会員: 3,000円,  
                          非会員: 5,000円,  
                          学生（会員, 非会員とも）: 1,000円

懇親会費:        学生以外: 5,000円  
                          学生: 2,000円

※ 懇親会の申し込みは、**11月9日（金）まで**にお願いします。

※ 学会参加費・懇親会費は学会当日、受付にてお支払いください。

### (5) 総会の委任状の提出

総会を欠席される方は、同参加申し込み用紙及び総会委任状に、総会への出欠についてのご回答、ならびに、総会委任状箇所への必要事項のご記入をお願い致します。「参加申し込み用紙及び総会委任状」は大会ホームページからもダウンロード可能です。

## (6) 研究発表

### (ア) 発表論文の送付

発表者は、最終原稿（PDF）を 11月9日(金)までに、**座長、討論者、大会事務局** (nanzanarsc2018@gmail.com) の3か所それぞれにお送りください。大会事務局にお送りいただいた論文は、大会ホームページにアップする予定です。アップロードを希望されない方は、その旨をメールに明記してください。なお、大会終了後12月9日（日）をもって論文のリンクを削除する予定です。論文の公開を希望されない場合は、その旨を大会事務局までお伝え下さい。

座長、討論者の連絡先が分からないときは、大会プログラム委員会 (arsc2018application@gmail.com) にお問い合わせください。

### (イ) 研究発表および会場

原則として、発表20分、予定討論10分、一般討論10分です。座長の指示・判断にしたがって、円滑な運営にご協力ください。発表会場にはVGA接続のプロジェクターのみ準備する予定です。ご自身のノートPC等をご持参ください。なお、発表会場にて、論文またはそれに準ずるもののコピーを直接配布していただいても結構です。その場合は30部程度ご持参下さい。

## (7) 懇親会

**会 場：** リアン（南山大学正門西、(2)会場案内に記載の地図をご参照下さい）

**日 時：** 2018年12月1日（土）18：40～20：40

**参加費：** 学生以外：5,000円

学生：2,000円

## (8) その他

・12月1日(土)のみキャンパス内コパン(セッション会場右斜め向かい側の建物)にある学食およびコンビニエンスストアが利用できます。

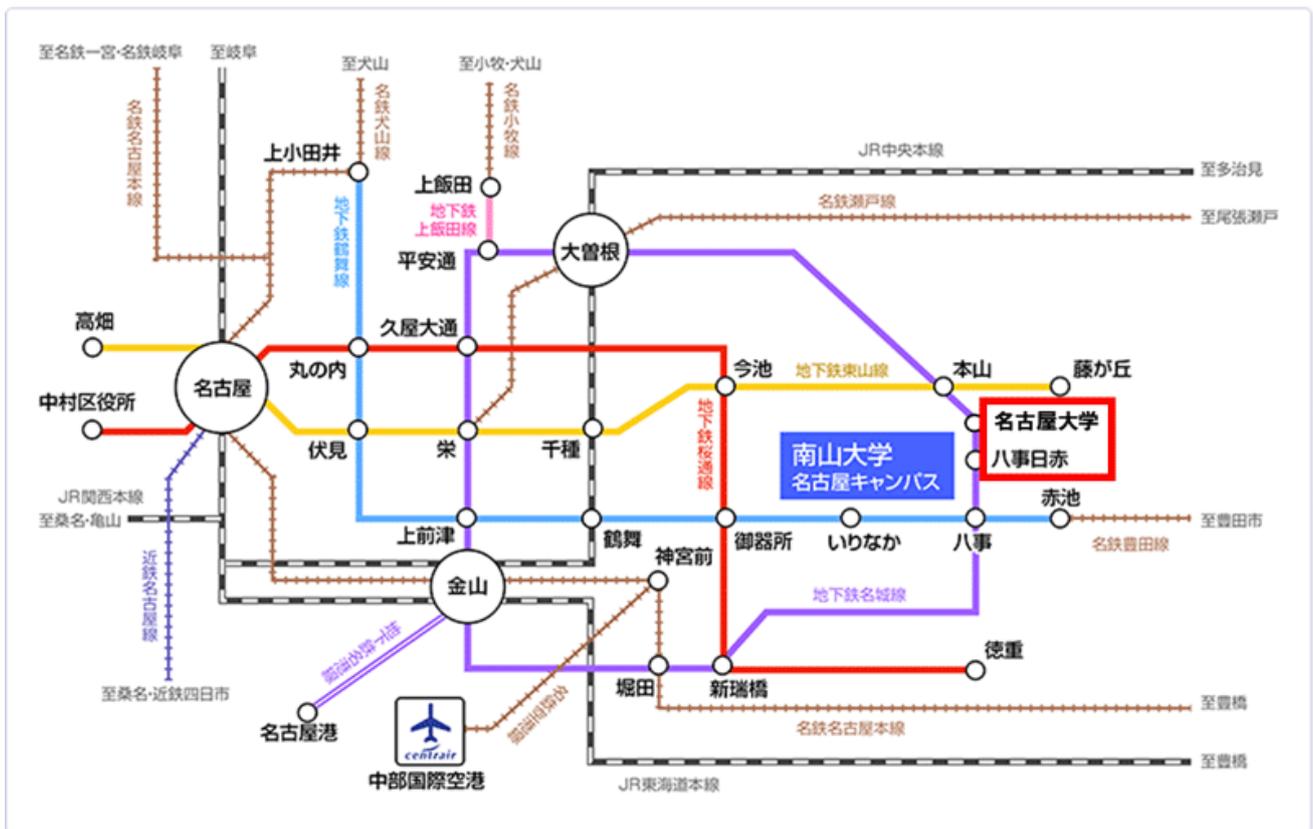
・12月2日(日)は学食およびコンビニエンスストアが利用できません。弁当(1,000円)の必要な方は(4)の「参加申込用紙」で 11月9日(金)までに必ずお申込みください。

## (9) 会場アクセス

会場へのアクセスは下記の通りです。詳細に関しては、大会ホームページをご覧ください。

会場アクセス:<https://sites.google.com/site/arsc2018nanzan/access>

- ✓ 地下鉄名城線「八事日赤」駅より会場まで徒歩約 15 分程度
- ✓ 地下鉄名城線「名古屋大学」駅より会場まで徒歩約 15 分程度



地下鉄「八事日赤」「名古屋大学」へのアクセス

地下鉄「八事日赤」駅、「名古屋大学」駅からのアクセス



### 3. 第9回アジア地域科学セミナーのご案内

ARSC 事務局

アジア地域科学セミナーは、アジア諸国における地域科学の研究発展と交流を促進するために、応用地域学会（ARSC）、中国地域学会（RSAC）、台湾地域学会（CRSA）、韓国地域学会（KRSA）が共催して開催しております。

第9回は中国地域学会（RSAC）の担当により、2019年4月19日(金)～21日(日)の日程で、上海大学で開催されます。例年より日程が大幅に繰り上がっていますので、ご注意ください。2019年4月19日はRegional Scienceの創始者、Walter Isard教授の生誕100年に当たります。

第9回セミナーホームページ：<https://asrs2019.weebly.com/>

#### 第9回アジア地域科学セミナー概要

\*日程：2019年4月19日(金)～21日(日)

\*場所：SHU-UTS SILC Business School, Shanghai University (China)

20 Chengzhong Road, Jiading District, Shanghai, 201899, China

\*開催担当：中国地域学会（RSAC）

論文発表・参加の申し込みは、セミナーHPで詳細を確認のうえ、各自お申込みください。

アブストラクト 送付期限：2019年1月15日(火) \*submission to local committee E-mail

発表論文の提出期限：2019年3月1日(金) \*submission to local committee E-mail

### 4. 「応用地域学研究」への投稿論文の募集

「応用地域学研究」編集委員長 堤 盛人（筑波大学）

「応用地域学研究」編集委員会では論文投稿を随時受け付けております。投稿論文は編集委員会の指名する複数の査読者により査読が行われます。奮ってご投稿下さい。（<http://www.arsc.org/>を参照ください。）

理論から実証まで幅広い研究論文をお待ちしております。様々な地域課題に関する問題解決型研究などの適時性に優れた論文のご投稿や、若い研究者によるご投稿も歓迎します。

1. 論文投稿の際、論文はできるだけ MS-Word 形式のファイルを電子メールの添付ファイルでお送り下さい。宛先は、編集委員長です (e-mail:tsutsumi@sk.tsukuba.ac.jp)。PDF ファイルでも結構ですが、印刷時の編集の都合で最終原稿は MS-Word 形式でお願いすることがあります。
2. 受付の確認を電子メールで送付いたします。投稿後一週間を過ぎても連絡が無い場合は、以下の連絡先までお問い合わせ下さい。
3. 掲載論文の著作権は学会に帰属します。また、応用地域学研究発行の約 1 年後に掲載論文を学会HPにて公開します。

## 『応用地域学研究』に関する お問い合わせ先

応用地域学研究編集委員長 堤 盛人

〒305-8573 つくば市天王台 1-1-1 筑波大学システム情報系 社会工学域  
TEL 029 (853) 5007 FAX 029 (853) 5070  
E-Mail tsutsumi@sk.tsukuba.ac.jp

## 9. 事務局だより



ARSC 事務局

### ARSC 会員現勢

2018 年 10 月 25 日現在の会員数(昨年度総会以降の入退会者を含む)は以下の通りです。

個人会員 485 名(内、一般会員 419 名、学生会員 61 名、海外会員 5 名)

賛助会員 5 団体(総口数 7 口)。

### 事務局からのお願い

◆ 会員の皆様の登録情報は、メール連絡やジャーナル等の送付に重要な情報となっています。変更があった場合は、会員ページ (<https://service.kktcs.co.jp/smms2/loginmember/arsc>) にログインし、速やかに登録情報の変更をお願いいたします。

◆ 地域科学に関連する分野の研究に興味を持たれている個人または団体が周囲に居られましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。新規会員の入会申込はARSCのホームページ (<http://www.arsc.org/>) の「入会手続き」より行ってください。入会に関するお問い合わせは、ARSC事務局にメール ([clerk@arsc.org](mailto:clerk@arsc.org)) まで。

◆ 事務局やニュースレター等に対しまして、ご意見や新しい企画等ございましたら、是非、お知らせください。

編集  
後記

2018年度のノーベル経済学賞はWilliam Nordhaus氏およびPaul Romer氏に授与することとなりました。社会が環境問題と経済成長のバランスを取りながら、持続可能な発展を求めているとのメッセージです。このニュースレターのように、我が応用地域学会は早くもこの持続可能な問題に直面しており、いま解決しなければならない状況です。外部・内部の様々な制約を乗り越え、優れた研究交流の場を提供できるような成長路線を見つけましょう。  
(DZ)

**ARSC NEWS No. 98** (2018年10月発行)

発行元 応用地域学会事務局 (文部科学省学会コード=10023)

会長: 安藤 朝夫

ARSC NEWS 担当: 大澤 義明 (副会長) / 曾 道智 (渉外担当幹事) / 田宮すみ恵 (事務局)

〒162-0805 東京都新宿区矢来町126 NITTOビル (株)メッツ研究所内

TEL: 03 (5227) 7804 / FAX: 03 (5227) 7807

Email: [clerk@arsc.org](mailto:clerk@arsc.org) / 学会 HP: <http://www.arsc.org/jp/>

送付先:第 32 回研究発表大会実行委員会  
E-mail: nanzanarsc2018@gmail.com  
南山大学経営学部 奥田研究室  
所在地: 〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18

第 32 回応用地域学会(ARSC)  
研究発表大会 参加申し込み用紙 ・ 総会 委任状

<研究発表大会>

日時: 2018 年 12 月 1 日(土)-2 日(日)

場所: 南山大学名古屋キャンパス Q 棟

氏名:	連絡先(E-mail):
所属:	会員の種別 ( 正会員 ・ 学生会員 ・ 非会員 )
研究発表大会に ( 参加する ・ 参加しない )	総会に ( 出席する ・ 欠席する )

参加費: 正会員は 3,000 円、非会員は 5,000 円、学生は会員・非会員ともに 1,000 円です。

◎ 懇親会の参加について (懇親会費: 一般 5,000 円、学生 2,000 円)

12 月 1 日(土)夜の懇親会に( 参加する ・ 参加しない )

◎ 12/2(日)の昼食 (弁当 1,000 円)について(当日、学食は利用できません。)

12 月 2 日(日)昼の弁当を( 注文する ・ 注文しない )

◎ 第 32 回 ARSC 総会に欠席される方は、必ず委任状をご提出下さい。

<総会>

日時: 2018 年 12 月 1 日(土)

場所: 南山大学名古屋キャンパス D 棟

委 任 状

2018 年 12 月 1 日(土)の応用地域学会総会を欠席いたします。

ARSC Newsletter No.98, 第 1 項 RURDS に関する運営委員会案に ( 賛成 ・ 反対 )  
します。それ以外の全ての議決権の行使を( )に委任いたします。

ご芳名

印

( 会員番号: )

※ 捺印の代わりに会員番号を記すことでも可

(注 1) ファイルに記入後、メールに添付してお申し込みください。

(注 2) 参加費・懇親会費は学会当日、受付にてお支払いください。

◎ 連絡欄

2018年度応用地域学会研究発表大会プログラム

第1日:12月1日(土)

第2版

第1会場(1F Q102)		第2会場(1F Q103)		第3会場(1F Q104)		第4会場(3F Q313)		第5会場(3F Q314)		
Earlybird1 (English Session)		Earlybird2		Earlybird3						
9:00-10:20	座長	高塚 創(香川大学)	座長	内藤 徹(同志社大学)	座長	隅田和人(東洋大学)				
	1-1A	報告者 李 宗輝(東北大学) 伊藤 亮(東北大学)	2-1A	報告者 萩行さとみ(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)	3-1A	報告者 鈴木雅智(東京大学) Seow Eng Ong(シンガポール国立大学)、浅見泰司(東京大学)、清水千弘(日本大学)				
	1-1B	報告者 李 馨萌(東北大学) 曾 道智(東北大学)	2-1B	報告者 高野佳佑(株式会社帝国データバンク)	3-1B	報告者 鈴木崇文(東京大学)				
	討論者	森田 忠士(近畿大学)	討論者	内藤 徹(同志社大学)	討論者	隅田和人(東洋大学)				
10:20-10:30									休憩	
10:30-11:50	座長	伊藤亮(東北大学)	座長	松尾美和(神戸大学)	座長	石倉智樹(首都大学東京)	座長	松島法明(大阪大学)	座長	藤嶋翔太(東京理科大学)
	2-2A	報告者 森田忠士(近畿大学) 山本和博(大阪大学)	1-2A	報告者 松尾美和(神戸大学)	3-2A	報告者 細江宣裕(政策研究大学院大学) 阿久根優子(日本大学)	4-2A	報告者 松島法明(大阪大学) Zhiyun Chen(モナシユ大学)、Chonswoo Choe(モナシユ大学)	5-2A	報告者 田淵隆俊(東京大学)
	2-2B	報告者 松本 睦(立命館大学)	1-2B	報告者 宮川 翼(神戸大学) 瀬谷 創(神戸大学)、力石真(広島大学)	3-2B	報告者 阿久根優子(日本大学) 細江宣裕(政策研究大学院大学)	4-2B	報告者 川崎晃央(大分大学)	5-2B	報告者 藤原直哉(東北大学) 青木高明(香川大学)、Mark Fricker(オックスフォード大学)、中垣俊之(北海道大学)
	討論者	伊藤亮(東北大学)	討論者	瀬谷 創(神戸大学)	討論者	石倉智樹(首都大学東京)	討論者	北村 弘(京都産業大学)	討論者	文世一(京都大学)
11:50-13:00									休憩	
13:00-15:00	座長	川藤康生(関西国際大学)	座長	赤松隆(東北大学)	座長	川田恵介(東京大学)	座長	高橋孝明(東京大学)	座長	岡田隆明(南山大学)
	1-3A	報告者 安田昌平(慶応義塾大学) 共著者 宅間文夫(明海大学)	2-3A	報告者 赤松 隆(東北大学) 共著者 松本克哉(東北大学)	3-3A	報告者 大野由香子(慶応義塾大学)	4-3A	報告者 西澤明(東京大学)	5-3	報告者 金本良嗣(政策研究大学院大学) 2015年国勢調査に基づく都市雇用圏について
	1-3B	報告者 隅田和人(東洋大学) 共著者 瀬古美香(武蔵野大学)、吉田二郎(ペンシルベニア州立大学)	2-3B	報告者 太田充(筑波大学) 共著者 山下裕(北海道大学)	3-3B	報告者 定行泰南(早稲田大学) 共著者 有村俊秀(早稲田大学)	4-3B	報告者 中村良平(岡山大学) 共著者 長宗武司(岡山大学)		<基調講演> スーパー・メタリオン構想～中間報告～ <パネルディスカッション> スーパー・メタリオン構想の中間報告に向けて ～中部地域の視点から～ <趣旨> 現在、国土交通省ではリニア中央新幹線の開業を見据えた新しい空間計画として「スーパー・メタリオン構想」を検討している。この特定セッションでは、国土交通省から「スーパー・メタリオン構想」の中間報告についてご説明頂いた後、2022年にリニア中央新幹線の開業が予定されている中部地域の視点から、スーパー・メタリオンを実現するためには如何なる取組みを強化する必要があるのかについて考える。
	1-3C	報告者 直井道生(慶応義塾大学) 共著者 安田昌平(公財)日本住宅総合センター/慶応義塾大学、行武憲史(日本大学)	2-3C	報告者 相澤大輝(東北大学) 共著者 池田清宏(東北大学)、大澤実(東北大学)、恩田幹久(東北大学)、木暮洋介(東北大学)	3-3C	報告者 吉田 惇(東北大学) 共著者 河野達仁(東北大学)、光廣陽平(総務省)	4-3C	報告者 佐藤泰裕(東京大学) 岡本千草(東京大学)		
15:00-15:10									休憩	
15:10-16:30	座長	堤 盛人(筑波大学)	座長	川崎晃央(大分大学)	座長	藤田昌久(甲南大学)	座長	Supply Elasticity of Housing Market in Japan		
	1-4A	報告者 小又輝広(筑波大学) 共著者 小林隆史(立正大学)、大澤義明(筑波大学)	2-4A	報告者 日原勝也(首都大学東京)	3-4A	報告者 四衛 深(筑波大学) 共著者 大澤義明(筑波大学)	4-3D	報告者 中島賢太郎(一橋大学) 共著者 細野薫(学習院大学)、水田岳志(一橋大学)、植杉威一郎(一橋大学)		
	1-4B	報告者 岡山琢也(熊本大学) 共著者 細谷謙大(熊本県庁)、川野倫輝(熊本大学)	2-4B	報告者 森本 裕(甲南大学)	3-4B	報告者 田北俊昭(山形大学)	4-3E	報告者 森知也(京都大学) 共著者 武田航平(LSE)		
	討論者	岡山琢也(熊本大学)	討論者	松島格也(京都大学)	討論者	近藤恵介(経済産業研究所)	討論者	山鹿久木(関西学院大学)		
16:40-17:40	坂下賞受賞講演(DB11教室(D棟地下)) 司会:2017年度坂下賞選考委員会委員長 報告者:直井道生(慶応義塾大学) 演題:Post-Disaster Assistance, Local Government Spending, and the Samaritan's Dilemma									
17:40-18:20	総会(DB11教室(D棟地下))									
18:40-20:40	懇親会(会場:リアン(キャンパス内))									

第2日:12月2日(日)

		第1会場(1F Q102)		第2会場(1F Q103)		第3会場(1F Q104)		第4会場(3F Q313)			
		Earlybird4		Earlybird5		Earlybird6					
		座長	高山雄貴(金沢大学)	座長	直井道生(慶應義塾大学)	座長	相浦洋志(南山大学)				
9:00-10:20	1-5A	列車内混雑とボトルネック渋滞を考慮した都市部の交通手段・出発時刻同時選択モデル		2-5A	Neighborhood Externalities from "One-room Apartments"		3-5A	時間帯による複数市場の分析			
		報告者	壇辻貴生(東京工業大学)		報告者	岡本千草(東京大学)		報告者	村山 透(筑波大学)		
	共著者	福田大輔(東京工業大学)	報告者	中川雅之(日本大学)	報告者	相浦洋志(南山大学)	報告者	相浦洋志(南山大学)			
	討論者	高山雄貴(金沢大学)	報告者	黒田雄太(東北大学)	報告者	欧陽君韻(筑波大学)	報告者	大澤義明(筑波大学)			
1-5B	待機児童問題解消のための助成金の設計		2-5B	Does Disclosure of School Quality Information Increase the Gap or Inequality? Evidence from Rental Housing Data		3-5B	過疎地のライドシェア実証実験の限界				
	報告者	野田寛人(慶應義塾大学)		報告者	黒田雄太(東北大学)		報告者	小柳淳二(鳥取大学)			
報告者	栗野盛光(慶應義塾大学)、高原 勇(筑波大学)、綿引由美(筑波大学)	報告者	黒田雄太(東北大学)	報告者	黒田雄太(東北大学)	報告者	小柳淳二(鳥取大学)	報告者	小柳淳二(鳥取大学)		
討論者	森本侅平(首都大学東京)	報告者	黒田雄太(東北大学)	報告者	黒田雄太(東北大学)	報告者	小柳淳二(鳥取大学)	報告者	小柳淳二(鳥取大学)		
討論者	森本侅平(首都大学東京)	報告者	黒田雄太(東北大学)	報告者	黒田雄太(東北大学)	報告者	小柳淳二(鳥取大学)	報告者	小柳淳二(鳥取大学)		
10:20-10:30	休憩										
		生産技術		交通		公共財		財政			
		座長	大城淳(沖縄大学)	座長	平松燈(近畿大学)	座長	徳永澄憲(麗澤大学)	座長	林正義(東京大学)		
10:30-11:50	1-6A	Product Cycles and Growth Cycles Revisited with Mobile Capital		2-6A	Economics of Global Terminal Operator		3-6A	Reference Dependent Preferenceと地方公共財			
		報告者	曾道智(東北大学)		報告者	文世一(京都大学)		報告者	米本 清(高崎経済大学)	4-6A	Capitalization and Municipal Mergers: An Evaluation of a Territorial Reform in Japan
	共著者	劉静怡(仙台銀行)	報告者	今井雄一(ワシントン大学)	報告者	奥山忠裕(長崎県立大学)	報告者	林正義(東京大学)	共著者		鈴木崇史(東京大学)
	討論者	田中仁史(北海道大学)	報告者	津布久将史(大東文化大学)	報告者	奥山忠裕(長崎県立大学)	報告者	林正義(東京大学)	共著者	鈴木崇史(東京大学)	
1-6B	The Role of Population Concentration in the Development and Spatial Diffusion of General Purpose Technologies		2-6B	Land Use Regulation and Transportation Policies with Two Transport Modes: the Bottleneck Congestion Case		3-6B	Performance Measurement of Local Public Service Provisions in Indonesia: A Data Envelopment Analysis Approach		4-6B	道路特定財源の一般財源化による建設国債発行枠の拡大	
	報告者	長町康平(香川大学)		報告者	河野達仁(東北大学)		報告者	片岡光彦(立教大学)		報告者	太田和博(専修大学)
共著者	長町康平(香川大学)	報告者	河野達仁(東北大学)	報告者	片岡光彦(立教大学)	報告者	太田和博(専修大学)	報告者	太田和博(専修大学)		
討論者	大城淳(沖縄大学)	報告者	河野達仁(東北大学)	報告者	片岡光彦(立教大学)	報告者	太田和博(専修大学)	報告者	太田和博(専修大学)		
討論者	大城淳(沖縄大学)	報告者	河野達仁(東北大学)	報告者	片岡光彦(立教大学)	報告者	太田和博(専修大学)	報告者	太田和博(専修大学)		
11:50-13:00	昼食										
		人口		産業の実証分析		都市構造		評価・計測			
		座長	河端瑞貴(慶應義塾大学)	座長	中島賢太郎(一橋大学)	座長	曾道智(東北大学)	座長	河野達仁(東北大学)		
13:00-15:00	1-7A	福岡県における市町村人口の変遷と確率動向		2-7A	Collaborative Knowledge Creation: Evidence from Japanese Patent Data		3-7A	Emergence of Urban Landscape: Equilibrium Selection in a Location Choice Game between Firms and Households			
		報告者	坂本博(アジア成長研究所)		報告者	森知也(京都大学)		報告者	大澤 実(東北大学)	4-7A	火山噴火降灰による交易および物流への広域的な影響評価に関する基礎的研究
	共著者	宮澤和俊(同志社大学)	報告者	坂口翔政(東京大学)	報告者	赤松 隆(東北大学)	報告者	石倉智樹(首都大学東京)	共著者		尾山 梓(経済産業省)
	討論者	宮澤和俊(同志社大学)	報告者	荒田祖之(経済産業研究所)	報告者	川森智彦(名城大学)	報告者	石倉智樹(首都大学東京)	共著者	尾山 梓(経済産業省)	
1-7B	小地域単位の人口動態検討のための基礎分析 -アンケート調査を活用した住み替え意思決定の要因分析-		2-7B	景気における集積の経済に関する研究		3-7B	格子状経済空間における幾何学的安定パターン		4-7B	心筋停止傷病者の救急搬送時間短縮による生存率・社会復帰率の改善便益の計測	
	報告者	宅間文夫(明海大学)		報告者	YU, KIJUN(青山学院大学)		報告者	木暮洋介(東北大学)		報告者	坂本直樹(山形大学)
共著者	宅間文夫(明海大学)	報告者	YU, KIJUN(青山学院大学)	報告者	木暮洋介(東北大学)	報告者	坂本直樹(山形大学)	報告者	坂本直樹(山形大学)		
討論者	坂本博(アジア成長研究所)	報告者	YU, KIJUN(青山学院大学)	報告者	木暮洋介(東北大学)	報告者	坂本直樹(山形大学)	報告者	坂本直樹(山形大学)		
討論者	坂本博(アジア成長研究所)	報告者	YU, KIJUN(青山学院大学)	報告者	木暮洋介(東北大学)	報告者	坂本直樹(山形大学)	報告者	坂本直樹(山形大学)		
1-7C	日本における人口移動:通勤編		2-7C	Heterogeneous Treatment Effects of a Place-Based Policy: The Role of Production Networks		3-7C	動的混雑料金が都市空間構造に与える影響		4-7C	クルーズ船の船員の寄港地(北九州港)における観光行動の規定要因とオプション価値の分析	
	報告者	近藤恵介(経済産業研究所)		報告者	藤嶋翔太(東京理科大学)		報告者	高山雄貴(金沢大学)		報告者	亀山嘉大(佐賀大学)
共著者	近藤恵介(経済産業研究所)	報告者	藤嶋翔太(東京理科大学)	報告者	高山雄貴(金沢大学)	報告者	亀山嘉大(佐賀大学)	報告者	佐伯直克(北九州市港湾空港局クルーズ)		
討論者	河端瑞貴(慶應義塾大学)	報告者	藤嶋翔太(東京理科大学)	報告者	高山雄貴(金沢大学)	報告者	亀山嘉大(佐賀大学)	報告者	佐伯直克(北九州市港湾空港局クルーズ)		
討論者	河端瑞貴(慶應義塾大学)	報告者	藤嶋翔太(東京理科大学)	報告者	高山雄貴(金沢大学)	報告者	亀山嘉大(佐賀大学)	報告者	佐伯直克(北九州市港湾空港局クルーズ)		
討論者	河端瑞貴(慶應義塾大学)	報告者	藤嶋翔太(東京理科大学)	報告者	高山雄貴(金沢大学)	報告者	亀山嘉大(佐賀大学)	報告者	佐伯直克(北九州市港湾空港局クルーズ)		
討論者	河端瑞貴(慶應義塾大学)	報告者	藤嶋翔太(東京理科大学)	報告者	高山雄貴(金沢大学)	報告者	亀山嘉大(佐賀大学)	報告者	佐伯直克(北九州市港湾空港局クルーズ)		